

令和5年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
(盲ろう児に対する指導の在り方に係る調査研究)
成果報告書

受託団体名
国立大学法人筑波大学

1. 研究のテーマ

「A 盲ろう児を担当する教師に対する研修の在り方」

2. 研究の名称

盲ろう児を担当する教師を対象とした研修プログラムと指導支援システムの開発研究

3. 研究代表者

氏名	所属	役職
雷坂浩之	筑波大学附属学校教育局	次長

4. 事業の実績

(1) 研究の目的・目標

研究の目的

前回の本学組織における研究においては、希少性、多様性、かつ点在性故に立ち後れている盲ろう幼児児童生徒の教育の充実を図るため、令和3年度に特別支援教育に関する実践研究充実事業を受託し、「盲ろう幼児児童生徒に対する指導実践事例の集積と指導・支援に必要な教材・指導法のデータベース化及び教員研修システムの開発研究」に取り組んだ。その結果、盲ろう教育に関する教材・指導法に関するコンテンツをデータベースで公開し、あわせて実践事例の分析結果を踏まえ、盲ろう幼児児童生徒の指導・支援において大切にすべきことを「盲ろうの子どもたちの指導・支援におけるポイント」というリーフレットにまとめた。なお、全国の教育委員会や特別支援学校等に本リーフレットを配布及びホームページで公開することで、盲ろう幼児児童生徒の指導のポイントやデータベースの存在を周知した。

しかし、教材や指導法に関するデータベースのコンテンツは、多様な障害特性や発達段階の盲ろう幼児児童生徒の指導の参考になるまでにはまだまだ充実・改善が必要である。また、当時作成した教員研修プログラムは初めて盲ろう幼児児童生徒を担当する教員向けのものであり、盲ろう幼児児童生徒の実態把握をはじめ、指導計画の立案・実施や実際の指導に必要なより高度な専門的な知識及び技術等を身に付けられる内容には至っていない。

我が国の盲ろう幼児児童生徒を担当する教員向けのより高度な研修プログラムを開発し、実際の研修の場において活用する。また、盲ろう幼児児童生徒を担当する教員の悩みや困難さの解決に繋がるような指導のヒントや参考事例等を提供し、教員の指導力等の向上に寄与できるようなシステムを構

築し、盲ろう幼児児童生徒が在籍する学校を日常的に支援する体制を作る。

研究の目標

盲ろう幼児児童生徒を担当する教師の指導力等の向上及び教師への支援体制等の拡充が喫緊の課題であることから、研究期間内で以下の事項への取り組みを進める。

1. 盲ろう幼児児童生徒の指導経験のある教員を対象に研修ニーズを調査する。
2. 海外の教員研修の内容やプログラムに関する情報を集める。
3. 我が国における盲ろう児を担当する教員向けの研修プログラムを開発する。
4. 開発したプログラムをもとに研修を実施する。
5. 全国の盲ろう児を担当する教員の日常の指導を支援する体制を作る。
6. 多様な指導場面や指導事例を映像コンテンツとしてデータベースに集積・公開する。

(2) 取組内容

1. 教員等を対象とした研修ニーズ調査について

盲ろう幼児児童生徒の指導経験を有する教員、現在指導に携わっている教員や保育士、施設職員、看護師などを対象とした研修ニーズに関するアンケート及び訪問による聞き取り調査を実施した。

(アンケートの開始が遅かったことにより、盲ろう教育の実践経験者からの回答が予定数に達していないため、2年次にも継続して実施し、引き続きニーズ等の詳細の分析を行う予定である。)

2. 海外の教員研修の内容やプログラムに関する情報収集について

アメリカ合衆国に研究協力者を派遣し、ボストンカレッジキャンパススクール、パーキンス盲学校、テキサス州立盲学校、テキサス州立聾学校を訪問し、現地での盲ろう教育の実態を視察するとともに、大学の研究者などにも盲ろう教育に携わる教員や専門職等の研修システムや養成プログラムに関する情報収集を行った。

3. 我が国における盲ろう児を担当する教員向けの研修プログラム開発と研修の実施について

筑波大学附属学校教育局にプロジェクト研究チームを立ち上げ、附属視覚特別支援学校に在籍する盲ろう児童生徒の事例検討会を複数回行い、指導法等に関する検証を行うとともに、研究協議会や事業報告会においてその成果を共有する場を設け、全国各地で現在盲ろう幼児児童生徒を担当する教員を対象とした研修会を開催した。また、全国盲ろう教育研究会研究協議会及び本事業中間報告会(ハイブリッド形式)において、今年度の取組と今後の予定等について広く報告し、参加者から研修ニーズをはじめとした意見や要望を伺う機会を設定した。

4. 全国の盲ろう児を担当する教員の日常の指導支援体制の構築について

三重県・大阪府・新潟県・徳島県・千葉県において盲ろう幼児児童の指導や支援に当たっている複数の特別支援学校(視覚特別支援学校3校、聴覚特別支援学校1校、知的特別支援学校1校、肢体不自由特別支援学校1校)、就学前療育機関(難聴児支援機関)、放課後デイサービス、保育園、医療機関、卒後支援機関などを訪問し、当該の盲ろうの子どもたちの実態の視察とともに、教員や施設職員・看護師、保育士などから、指導や支援に伴う困難や課題の聞き取りを行い、具体的な関わりや指導法等に関する相談対応を行った。

三重県及び大阪府在住のケースに関しては、家庭訪問を行い、子どもの家庭での生活の様子を視察するとともに、保護者から育児等に関する悩みの相談を受けた。また、学校や施設の教職員の指導に対する保護者の期待などを聞き取った。

新潟県においては、視覚特別支援学校を卒業し、現在は就労支援施設で生活する盲ろう者の実

態を視察し、成人盲ろう当事者の学校から施設への移行支援の実情と施設職員の指導や支援に関する課題の聞き取りと相談対応を行った。

徳島県においては、保護者から就学時、卒業後の就労・生活における悩みや課題を伺い、保護者間のネットワークに係る情報の共有等を行った。また、盲ろう児者の生涯学習の場として位置づけた盲ろう児とその家族の会「ふうわ」の活動の様子を視察し、課題等の聞き取りを行った。

千葉県においては、市立特別支援学校にチャージ症候群の盲ろう児童生徒が複数在籍しているが、盲ろう児童生徒を担当する教員の指導力が不足していて、十分な指導がなされていないと、同校の管理職からの相談を受け、実際の指導場面の観察がてら教員からの研修や支援のニーズに関する聞き取りを行った。

訪問視察時に録画した盲ろうの子どもたちの動画記録を使用し、筑波大学附属特別支援学校群の教員間におけるオンラインケースカンファレンスを複数回開催し、当該幼児児童生徒の実態把握や指導計画の立案等に向けた検討を行った。

5. 多様な指導場面や指導事例の映像コンテンツ化及びデータベースへの集積・公開について

盲ろう児の指導に関する動画を作成し、全国盲ろう教育研究会HPに掲載した（下記リンク参照、ただし令和6年10月よりサイト移行予定）。今後、データベースとリンクする予定である。あわせて、データベースの集積と掲載に取り組み、充実を図る予定である。

○全国盲ろう教育研究会第21回研究協議会（2023年8月5日）

実践報告（筑波大学附属視覚特別支援学校：塚田先生）

小学部入学から今日までのA児との関わりの中で学んだこと、大切にしてきたこと

ー「～楽しい」、「～大好き」といった思いがことばの育ちの根っこー

<https://www.re-deafblind.net/page047.html>

○全国盲ろう教育研究会第21回研究協議会

リレートーク 私の高校生活：田中凜さん（2023年8月5日）

<https://www.re-deafblind.net/page046.html>

（3）事業の実施日程

実施時期	実施内容
令和5年7月	第1回附属学校盲ろう教育プロジェクト研究会
	第1回協力者及びサポートチーム会議
	特別支援学校等教職員対象盲ろう研修会
8月	全国盲ろう教育研究会第21回研究協議会の共催開催
	三重県立特別支援学校他訪問視察
9月	大阪府立特別支援学校他訪問視察
10月	第2回附属学校盲ろう教育プロジェクト研究会
	第2回協力者及びサポートチーム会議
12月	新潟県立特別支援学校他訪問視察
	第3回附属学校盲ろう教育プロジェクト研究会

	第3回協力者及びサポートチーム会議
令和6年1月	研修ニーズアンケート開始
2月	徳島県立特別支援学校他訪問視察
	千葉県船橋市立特別支援学校訪問視察
	第4回附属学校盲ろう教育プロジェクト研究会
	第4回協力者及びサポートチーム会議
3月	中間報告会（盲ろう事例検討会及び授業研究会）
	アメリカ合衆国教育機関訪問視察

(4) 研究の成果

盲ろう教育に関する実践経験のある教員約50名（2024年3月末）からのアンケート結果においては、教員の年齢や特別支援学校での教職経験、担当した盲ろう幼児児童生徒の発達段階や障害の特性等により、必要とする研修に差異のあることが判明した。また、アメリカ合衆国での大学や盲学校・聾学校での視察を通じて、盲ろう教育に関連する教材・教具・支援機器、早期教育・初等中等教育プログラム、職業教育プログラム、家族支援システムにいたる様々な情報の収集ができた。こうした情報は、盲ろう教育に関する情報の提供を目的としたデータベースの充実や盲ろう教育に携わる教員の研修の形態(対面・オンライン・オンデマンド等の実施形態)や講義や実習に関する研修の内容等を検討する上で、大いに役立つものとなった。

国内でも各障害種の特別支援学校や支援施設・保育園等の視察（5府県・6特別支援学校・6支援施設・1保育園・1医療機関・8ケース）と教職員及び保護者との面談においては、様々な特性を有する盲ろう幼児児童生徒（卒業生も含む）の指導・支援場面や家庭での様子を見学し、あわせて教職員や保護者の悩みを聞き取った。乳幼児の段階から成人に至るまでの発達段階ごとの養育や教育・生活支援等を実施する上での課題や教職員及び保護者からの悩みや困窮感を共有することで、教職員に対する日常的な支援体制の在り方や保護者に対する相談・支援体制の在り方にも大きな課題があることを再確認することができた。

附属視覚特別支援学校に在籍する盲ろう児童（2ケース）の指導場面を研究協議会や事例検討会で公開し、指導計画や指導法に関する意見交換の場を複数回設定したり、プロジェクト研究会を通じて、児童の実態把握の方法や指導課題の分析などを行うことができた。また、発表会の様子を動画にまとめ、データベースのコンテンツの充実を図った。

(5) 研究の課題と今後の方策

2年目となる令和6年度は、引き続き、1年次に得た盲ろう教育の実践経験者からの研修ニーズやアメリカ視察における成果をもとに、新たに盲ろう幼児児童生徒を担当する教員等（保育士や施設職員等も含む）に向けた研修プログラムを開発し、対面講演型やオンライン型による研修を試行的に実施し、その成果の検証に取り組んでいく。研修は複数回実施し、受講した参加者からのアンケートを基に内容の妥当性などを検証し、都度研修コンテンツの見直しを図る。2年次にはドイツ連邦共和国における盲ろう教育も視察し、その成果も研修プログラムに

導入する。

現在盲ろう幼児児童生徒が在籍する特別支援学校や支援施設等を引き続き訪問し、教員や施設職員・保護者などからも指導や養育の悩みを直接聞き取り、教職員の困窮感の内容を研修コンテンツに取り入れるとともに、訪問や巡回・オンラインケースカンファレンス・盲ろう教育データベースなどによる日常的な教職員支援体制の構築を目指す。あわせて、保護者への相談対応を通じて、盲ろう児を初めて持つ保護者への相談体制の充実などの保護者支援の在り方を模索する。

本事業を通して得た各種の成果は、全国盲ろう教育研究会研究協議会や最終報告会等で発表する。教職員を対象とした研修プログラムや支援体制等に関する情報は、リーフレットにて発信する。

5. 実施体制

担当者氏名	所属・役職等	具体的な役割
雷坂 浩之	筑波大学附属学校教育局・次長	研究代表者・研究統括
星 祐子	全国盲ろう教育研究会・事務局長	研修プログラムの開発・研修
青木 隆一	筑波大学附属視覚特別支援学校・校長	教員支援体制の構築
西垣 昌欣	筑波大学附属聴覚特別支援学校・校長	教員支援体制の構築
篠塚 明彦	筑波大学附属桐が丘特別支援学校・校長	教員支援体制の構築
橋本 時浩	筑波大学特別支援教育連携推進グループ	データベース管理
亀井 笑	筑波大学附属視覚特別支援学校・教諭	研修プログラムの開発

6. 研究協力機関・校の一覧

(ふりがな) 学校名	障害種	具体的な役割
(つくばだいがくふぞくしかく) 筑波大学附属視覚特別支援学校	視覚障害	教員支援体制・視覚障害分野関連研修プログラム開発
(つくばだいがくふぞくちょうかく) 筑波大学附属聴覚特別支援学校	聴覚障害	教員支援体制・聴覚障害分野研修プログラム開発
(つくばだいがくふぞくきりがおか) 筑波大学附属桐が丘特別支援学校	肢体不自由	教員支援体制・肢体不自由・医療的ケア分野研修プログラム開発
(つくばだいがくふぞくおおつか) 筑波大学附属大塚特別支援学校	知的障害	教員支援体制・一般知的分野関連研修プログラム開発
(つくばだいがくふぞくくりはま) 筑波大学附属久里浜特別支援学校	知的自閉	教員支援体制・自閉症・強度行動障害分野関連研修プログラム開発